

## Results of a Visitor Questionnaire Survey for the ‘Citizen Festival’ in Monzen Town, Wajima City, Noto Peninsula, June 2025

BAYER Achim<sup>†</sup>

### Abstract

This study presents the results of a visitor questionnaire conducted during the “Wajima Citizen Festival,” held on June 8, 2025, in the township Monzen-machi, Noto Peninsula. Monzen-machi, historically situated at the gate of the prominent Sōji-ji Temple of the Sōtō Zen sect, has played a central role in the region’s cultural and economic life. Following the severe damage caused by the Noto Peninsula Earthquake on January 1, 2024, which struck Monzen-machi and Sōji-ji with seismic intensity 7, the 2025 festival provided an important opportunity for local revitalization of the “Sōji-ji Street” shopping area. The festival also featured participation from the Kanazawa-based food stall organization “Yokoccho Labo,” contributing to a lively and diverse atmosphere.

A volunteer team of three students and a supervising faculty member conducted the visitor survey with prior approval from Wajima City Hall between 11:00 a.m. and 1:00 p.m. Data were collected from 27 respondents in a casual interview format. Although incomplete, the data offer valuable insight into the festival’s attendees, their motivations, impressions, and hopes for the community’s recovery.

Survey results reveal a diverse visitor population including parents, local volunteers, and touring cyclists. Respondents praised Monzen-machi’s natural beauty, the friendliness of its residents, and the town’s calm atmosphere. While younger participants expressed interest in social media-friendly attractions, many in their 40s and 50s emphasized community revitalization, tourism growth, and event expansion. Across all age groups—from teens to nonagenarians—Monzen-machi was strongly valued for its warmth, human connections, and serene charm. Visitors suggested new initiatives, such as family support and youth-oriented spaces, while others stressed preserving the tranquil and traditional character of the town.

### Keywords

Wajima City the township Monzen-machi, 2024 Noto Peninsula Earthquake, Sōji-ji Temple, regional recovery, Hokuriku region

---

<sup>†</sup> bayer@seiryu-u.ac.jp (Faculty of Humanities, Kanazawa Seiryō University)

## 令和7年6月 能登半島輪島市門前町における 「市民祭り」の来訪者アンケート調査結果

バイヤー アヒム<sup>†</sup>

### キーワード

輪島市門前町, 令和6年能登半島地震, 総持寺, 地域復興, 北陸

### 目次

1. 調査の概要：背景と実施状況
2. 調査のデータの分析
3. 調査結果の纏め

### 1. 調査の概要：背景と実施状況

令和7年（2025年）6月8日、能登地方の門前町で輪島市民祭りが開催された。門前町は、曹洞宗の重要な寺院である総持寺の門前に位置する町で、寺院への参拝者は地域経済や文化生活の重要な一部を担ってきた。令和6年元日に発生した能登半島地震では、門前町と総持寺が震度7の揺れに見舞われた。寺院や、寺院へ続く商店街の多くの建物が倒壊し、しばらくの間、総持寺への参拝も一時中断された。地震から1年半が経ち、総持寺も一部再開されたことで、今回の市民祭りは「総持寺通り商店街」の活性化にとって良い機会となった。さらにこの日は、普段は金沢市で出店している屋台の団体「よこっちょ・ラボ」も祭りに参加し、祭りの多様性と賑わいを高めるために屋台を出店した。

祭りの来場者の人口統計的特徴、背景、感想、そして希望をよりよく理解するために、3人のボランティア学生と引率教員（バイヤー）が、祭り当日に門前町を訪れた。輪島市役所の事前承認を得て、ボランティア学生たちは11時から13時頃、総持寺通りでアンケート調査を実施した。この時間帯、通り沿いのすべての屋台や店舗は営業しており、総持寺の入口向か

いにある輪島市役所門前総合支所前の広場では各種の演奏が行われていた。地元団体による演奏の一部が行われていた段階だったが、すでに一部の演目が終了していたため、若い親子連れはすでに帰宅しており、アンケート回答者の平均年齢層は40代となっていた。総持寺通りの下手には、禅の里（ぜんのさと）広場という文化センター兼観光案内所があり、その建物の外ではプロやセミプロのアーティストによる音楽パフォーマンスが行われており、その時間帯は主に大人向けの内容だった。

通りでのアンケート調査が終了した後、ボランティア学生たちは禅の里広場の館内スペースを親切に利用し、アンケート用紙からのデータ入力を開始した。このデータは完全ではなく、インタビューも会話的・カジュアルな雰囲気で行われた点に留意が必要である。時には、元のアンケート用紙にはなかった追加のメモが記入されることもあった。27名にインタビューを行ったが、質問によっては回答数が27に満たない場合もある。こうした不完全な点はあるものの、この調査が来場者の背景や感想、希望についての全体的な洞察を与えることを期待している。また、調査への参加を希望しなかった方の正確な人数は把握できていません。例えば、市役所支所前で子どもの出番を待っていた保護者の方は、その時点でインタビューを希望しなかったこともあったが、これは当然のことである。平均すると、調査への参加を希望しなかった方はおよそ10人に1人程度だったと思われる

る。最後に、能登地域以外の方のために補足すると、門前町は2006年（平成18年）に行政的に輪島市に編入されたが、市街地から20キロ以上離れた場所に位置している。この調査では、「輪島市門前町」と「旧輪島市地域」を区別して扱った。また、分析上、金沢より北東に位置する石川県内の全域を「能登地域」とし、能登半島以外の地域も含めて取り扱っている。

## 2. 調査のデータの分析

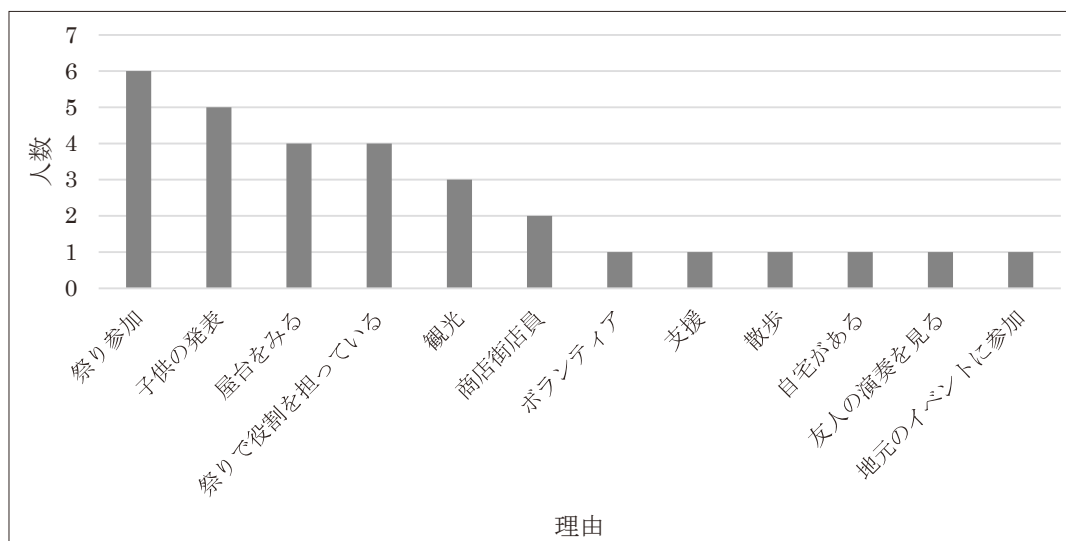
以下に、アンケートの各セクションを紹介する。質問の後に回答が続き、一部の箇所では棒

グラフやさまざまな集計方法も用いている。

### 2.2. 第一部：回答者の来訪、居住地、年齢について

問：本日の来訪する目的は？

答：観光：3, 祭り参加：6, 屋台をみる：4, 祭りで役割を担っている：4, 商店街店員：2, ボランティア：1, 支援：1, 散歩：1, 自宅がある：1, 友人の演奏を見る：1, 子供の発表を見る：5, 地元のイベントに参加：1（「棒チャート1：来訪の理由」参照）



棒チャート1：来訪の理由

問：現在の居住地は？

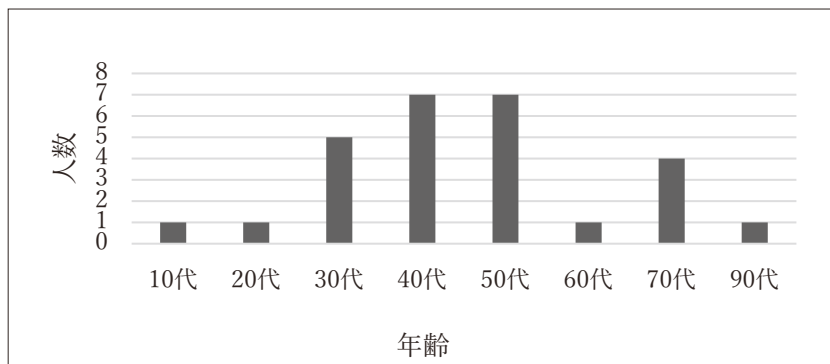
答：輪島市門前町：14, 旧輪島市地域：1 能登地域以外：東京：2, 埼玉県1, 京都：1, 金沢市：3, 石川県加賀地域：2, 県外の方はボランティア若しくは出張で能登滞在の方が多くいる。

補記：回答者の大半数は門前町の住民である。門前町と旧輪島市域の住民の内、避難所や仮設住宅で一時的にくらした方と暮らし続ける方が割と多いらしいが、これは会話しながら述べられたことで、本来のアンケート内容ではない。

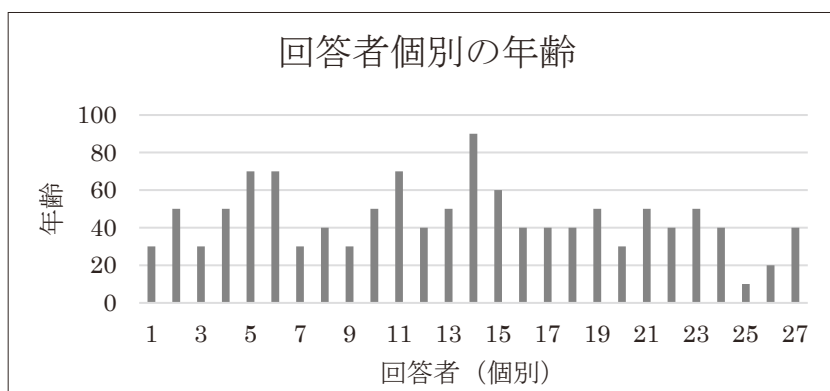
問：回答者の年齢

答：10代：1名, 20代：1名, 30代：5名, 40代：7名, 50代：7名, 60代：1名, 70代：4名, 90代：1名（「棒チャート2：回答者年齢構成」参照）

補記：回答者に正確な年齢は聞かず、10代、20代、30代、40代など、10歳ごとの年代で答えてもらった。門前町の回答者も他の地域の回答者も、どちらでも40代が一番多くなった（詳細は「棒チャート3：回答者年齢構成」参照）。

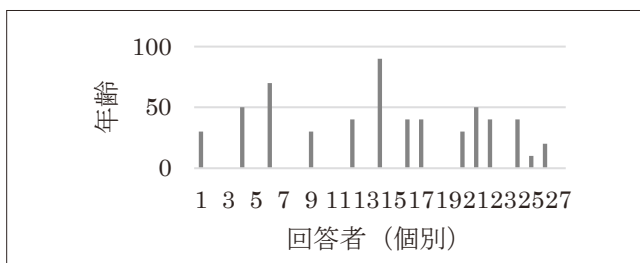


棒チャート2：回答者年齢構成

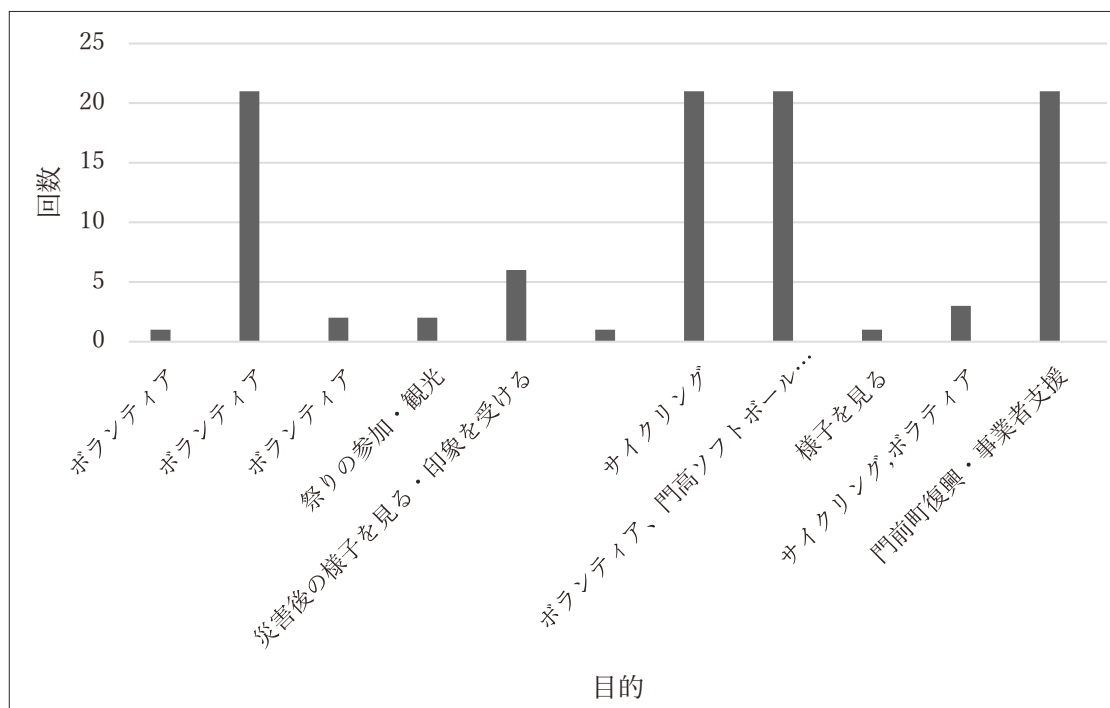


棒チャート3：回答者年齢構成

上記のデータからも門前町居住地の回答者を「居住地回答者個別の年齢」のようにになります。抽出すると、下記の「棒チャート4：門前町居



棒チャート4：門前町居住地回答者個別の年齢



棒チャート5：門前町住民以外の回答：地震後來門の目的

### 第三部：希望・お勧め・改善点

問：本日希望していること・欲しいこと [年齢代]

答：

1. 飲食系の屋台を楽しみに来た [10代]
2. 花火をしてほしかった! [20代]
3. 門前全体の情報発信のために広報活動をしている。お祭りで皆さんが笑顔になって楽しんでほしいと思っている。[30代]
4. 人の賑わいが例年より少ないのでもう少し盛り上がりのあるイベントがあればよかった。[30代]
5. 皆に楽しんでもらいたい。[40代]
6. 同じ派閥の福井にある永平寺周辺は観光地として栄えているように、総持寺の周辺ももっと盛り上げてほしい。[40代]
7. 今回の祭りはいろいろな人の協力の元、開くことができているが、このような催しを自分たちの力だけで開ければ良いと思う。[40代]

8. 多くの人に来てほしい。[40代]
9. 去年中止になった小学生や幼稚園児のパレードを楽しみに来た [40代]
10. この祭りに来た流れで子供達が遊びに行けるようなところが欲しい [40代]
11. 交流館への導線を分かりやすくできれば [40代]
12. トイレ増やす (イベント時) [50代]
13. もっと屋台がほしかった。[50代]
14. 子供が元気で発表する [50代]
15. もっと盛大にイベントを開催して観光客を集めてほしい [50代]
16. 友人を助ける・屋台で助ける [70代]

問：門前町の魅力・特徴は？

答：

1. 人口が少ないからこそ地域の人と関わる機会が多い、お寺は自慢できる! [10代]
2. 住んでいる人も気付きにくい山などの自然がいっぱいある! [20代]

3. 町民の皆さんが優しく、穏やかで、なごむところが好き。[30代]
4. 人が優しい、のんびり、きれい。[30代]
5. 知らない人がいない、自分たちでも受け入れてくれる。[30代]
6. 人が優しい、他人のことで思いやれる人柄。[30代]
7. 海などの自然がたくさん。[30代]
8. 人の優しさ。[40代]
9. 海が綺麗。[40代]
10. 自然が豊かで、食べ物がおいしい。[40代]
11. 町の人々が明るい。[40代]
12. 人が素敵。[40代]
13. 總持寺、自然、ユキワリソウ（花）、海の幸、山 [40代]
14. 自然。[40代]
15. 人柄の良さ・挨拶（知らない人でも）。[40代]
16. そばがおいしい。[50代]
17. 人があったかい。[50代]
18. 過去に開催していたそば祭りがとてもよかった。[50代]
19. 落ち着いた雰囲気、昔ながらの街並みに風情が感じられるところ。[50代]
20. 鳥の声、自然。[50代]
21. 優れた自然がある。[50代]
22. 何もないところが良い。[70代]
23. 子供を連れてくる家族が見える（輪島周辺は殆ど子供を連れていく家族が見えない）。[70代]
24. 輪島市内の町と町との繋がりが感じられる。田舎ならではの雰囲気が良い。[60代]
25. 自然豊かで落ち着いた雰囲気のため、居心地が良い。門前に住む人たちの人柄も良い。[90代]
1. インスタ映えスポットが欲しい、マックなどの大手チェーン店が欲しい [10代]
2. 県外の人を積極的に呼び込めるイベント（出店含め）、外部の人を集められる繋がりがあればいいと思う。[30代]
3. そば祭りが復活してくれると来るきっかけになる [30代]
4. 運動会があったらいいなと思ったので企画している [30代]
5. 高齢者向けの居場所づくりはおこなわれているが、子供の居場所や空間づくりがあまりされていないので、子供向けの取り組みももっと活発にしてほしい。[30代]
6. 自然を生かしたマリンスポーツ [30代]
7. 学校の授業などを増やしてほしい [40代]
8. 震災によって隆起した海岸線を逆に観光地として活用できないのか。[40代]
9. 震災以前は、町の様々な改善点が挙げられていたが、今はこのままの門前のままで大きく変わることなく、のんびりしたままで良いと思う。[40代]
10. 有名なアーティストを呼んでほしい、お寺でプロジェクションマッピングなど夜に楽しめるイベントもほしい [40代]
11. 大人というより子供が楽しめる、ワクワクできるイベントが欲しい [40代]
12. 交流人口の増加・滞在時間の増加 [40代]
13. 子供が参加できる活動を増やす [40代]
14. イベントを増やしてほしい [50代]
15. 平日暇な高齢者の交流の場所をつくる [50代]
16. 災害後の希望・ニーズを遠慮なく表現する [50代]
17. 若い人が少ないので若い人向けのイベントやライブをしてほしい [50代]
18. 有名なアーティストを呼んでほしい、お寺でプロジェクションマッピングなど夜に楽しめるイベントもほしい [50代]

問：門前町が改善できるところ

答：

19. 高齢者向けの居場所づくりはおこなわれているが、子供の居場所や空間づくりがあまりされていないので、子供向けの取り組みももっと活発にしてほしい。  
[50代]
20. 仮設住宅 [60代]
21. 幸せそうなコミュニティを維持する  
[70代]
22. ボランティア来てほしい [70代]
23. 人を集めてほしい [70代]
24. 若い人たちが結婚して、子どもを産んで、  
どんどん若い力を増やして行ってほしい。  
そのための生活しやすい街づくりも必要。  
[90代]

問：その他（市民に伝えたいこと）

答：

1. ニュースでもっと現状を知ってほしい！  
最近ではニュースで取り上げられることが減ってきた [10代]
2. 縁に来て♡ [20代]
3. 頑張ってください [30代]
4. 笑顔になってもらいたい [40代]
5. 前向きに頑張っていこう。[40代]
6. シンプルが一番、門前の禪の雰囲気を楽しんでいただければと思う。[40代]
7. 一緒に頑張りましょう♡ [40代]
8. 一緒に門前町を盛り上げて行きましょう。  
[40代]
9. 元気で生活してください。[50代]
10. 苦境に負けずに頑張してほしい。[50代]
11. この町ならではの良さというものは残していけばいいと思う。[60代]
12. もっともっとこの町の人口を増やしていきたい。[90代]

### 3. 調査結論の纏め

市民祭りの参加者には、子どもの発表を見に来た保護者や、ボランティア活動に関わる人々

など、多様な参加者層が見られた。また、サイクリストの旅行者も一定数おり、門前町の自然の美しさが複数の回答者から高く評価されていた。来場者からは、飲食屋台やパレードに対する楽しみや要望の声が多く寄せられていた。若い世代からは、SNSで発信できるようなスポットへの関心が示されていた。40代・50代を中心に、地域の活性化や観光客の増加、イベントの規模拡大を期待する声が目立っていた。

門前町の魅力としては、幅広い年代の回答者が「人の優しさ」「自然の豊かさ」「落ち着いた雰囲気」などを挙げており、特に人柄や地域のつながりを評価する声が多く見受けられた。10代から90代までの幅広い年齢層がアンケートに回答しており、若い世代は地域の人々との交流や自然に魅力を感じている一方、年配の世代は昔ながらの街並みや祭り、静けさに価値を見出していることが分かる。全体として、門前町は世代を超えて「人と自然の温かさ」が強く支持されている地域であることが明らかになった。

来場者からは、若者向けのインスタ映えスポットや大手チェーン店、子どもが楽しめるイベントや空間づくり、有名アーティストを招いた夜のイベントなど、多世代が楽しめる新しい取り組みを求める声も多く寄せられていた。一方で、震災後も町の雰囲気を大きく変えず、のんびりとした門前町の良さを維持したいという意見や、地域外からの人を呼び込むイベント、交流人口の増加を望む声も目立っていた。回答者の年齢層は10代から90代までと幅広く、特に30代から50代の意見が多く見られた。

また、「現状をもっと知ってほしい」「前向きに頑張ろう」「門前町を一緒に盛り上げたい」といった、地域や人々への応援や連帯を感じさせる意見も多く見られた。門前の禪の雰囲気や町の良さを大切にしたいという声もあり、特に40代の回答が目立っていた。

